

興味津々！ 募集対象者 自衛隊を実感



長崎地本（本部長 西田洋一郎 1海佐）は、8月4日（火）～6日（木）の3日間、西部方面総監部が実施する『パワーアドベンチャー』に募集対象者のべ115名を引率しました。

このイベントは、自衛隊に興味を持つ募集対象者に、陸・海・空自衛隊の部隊を見てもらい、進路の選択の一助として毎年実施されているものです。初日及び2日目は長崎県佐世保市で、海上自衛隊の護衛艦さわぎり（艦長 加倉井善明 2海佐）と陸上自衛隊の水陸機動団（団長 平田隆則 陸将補）を、3日目は福岡県春日市の航空自衛隊春日基地（基地司令 斎藤拓也 空将補）を見学し、3自衛隊の違いをコンパクトにまとめて見

パワーアドベンチャー

長崎地本だより

発行所
自衛隊長崎地方協力本部
長崎市出島町2番25号
Tel. 095-826-8844



長崎地本公式HP



長崎地本公式 Twitter



長崎地本公式 Instagram

国家を守る、
公務員。
自衛官募集集中



でもらいました。海自では、護衛艦の見学のほか艦長による海自の役割などの説明や佐世保音楽隊による歓迎演奏、陸自では、水陸機動団の主な装備品である水陸両用車の見学や陸自の説明、空自では基地内の展示航空機の見学や訓練展示、空自の任務などの説明があり、参加者は大きな装備品などに興

味を示していました。参加者からは「陸・海で迷っているが、どちらでも頑張りたい」「様々な技術を持つ人が多くの職場で働いていることを理解できた」などの率直な感想が聞かれました。

長崎地本は、1人でも多くの若者に自衛隊を理解していただき、志願者の増加に繋がるよう引き続き積極的なPR活動に努めてまいります。
（募集課企画広報室）

青少年広報（村空・佐監）

長崎地本（本部長 西田洋一郎 1海佐）は、8月5日（水）・6日（木）に海上自衛隊大村航空基地第22航空群（主催、8月18日（火）に海上自衛隊佐世保地方総監部主催の青少年広報に募集対象者計15名を引率しました。

青少年広報は、募集対象者に海上自衛隊の職場や仕事内容について知ってもらい、興味を持ってもらうことを目的として毎年実施されているものです。

大村航空基地では第22航空群（司令 岡田真典 海将補）のSH-60Kなどのヘリコプターや救難車両や整備の現場などを研修し、佐世保地方総監部では、護衛艦さわぎり、海上自衛隊佐世保史料館の見学や佐世保警備隊（司令 西和男 1海佐）での警備犬訓練の見学及び体験、佐世保教育



隊（司令 柳信男 1海佐）の教育施設などを研修し、学校等で学んできたことを土台に様々な分野でそれらを生かした仕事があることを実感してもらいました。

参加者は、「ヘリコプターを飛ばすためにも多くの人が

高等工科学校入校者 母校及び事務所訪問

8月3日（月）長崎地本琴海地域事務所（所長 中村恭博 陸曹長）は、陸上自衛隊高等工科学校（学校長 岩名誠一 陸将補）生徒2名の夏季休暇を利用して母校訪問を計画し引率しました。

昨年度入校した三木田尉生徒と中尾直樹生徒の2名は、それぞれの母校である時津町立時津中学校（校長 小田教哉 先生）と長崎市立琴海中学校（校長 長尾能博 先生）を訪問しました。



時津中学校では副校長先生に、琴海中学校では当時の担任の先生に話していただき、高等工科学校での学習や部活動、集団生活の苦労話などを報告しました。本人達は自身の変化として、親の有難みが分かったことや同期と助け合う気持ちが強くなったこと、国防に対する使命感や責任感が芽生えたことなどを力

強く話していただきました。先生方は、中学校を卒業以来、久しぶりの2人の訪問に話題を弾ませると同時に「心身ともに成長して立派になった」とお喜びでした。

また、かつて所属していた部室を訪れ、後輩たちへ今の生活が充実していることなどを伝え、立派に広報活動に協力してくれました。

琴海所は、入校後の高等工科学校生徒の成長を感じていただき、その魅力を先生方に広く認識いただくことで、国防を担う優秀な若者の志願者獲得につなげていきます。
（琴海地域事務所）



自衛官募集案内
詳しくは自衛官募集HPで

防衛大学校学生: 受付期間 7/1~10/22 1次試験 11/7-8
防衛医科大学校医学科学生: 受付期間 7/1~10/7 1次試験 10/24-25
防衛医科大学校看護学科学生: 受付期間 7/1~10/1 1次試験 10/17

自衛官候補生: 年間を通して受付中
陸上自衛隊高等工科学校生徒: 受付期間 11/1~R3/1/6
1次試験 R3/1/23

体験談 地本での臨時勤務を経験して

第16普通科連隊

陸士長 脇野 太貴

令和2年6月1日から6月30日までの間、陸上自衛隊大村駐屯地第16普通科連隊(連隊長 杉原正典1陸佐)より募集支援のため琴海地域事務所へ臨時勤務を命ぜられました。第2中隊所属の脇野太貴です。

琴海地域事務所は、学生時代とてもお世話になったので、この1か月間で事務所に貢献できるよう頑張りました。私の主な仕事は、母校である長崎明誠高校(校長 吉田賢治先生)を訪問し、学生とともに



明誠高校校長と脇野士長

に部活動に参加しつつ、その中で自衛隊見学ツアーへの勧誘や自衛隊のアピールポイントなどを話し、少しでも自衛

隊という職業に興味を持たせること。大好きなサッカーと広報活動を両立できているので、やりがいを感じています。また、先輩たちが「普段どんなことをしているのですか?」「楽しいですか?」と興味をもつて質問してくれるので、とても嬉しかったです。私が陸上自衛隊を志願した理由は、熊本県の健康駐屯地で勤務している親戚からの紹介と、自分自身さらに心身を鍛えたかったからです。入隊後半年間の教育を受けました。慣れない環境でもかまわず、初めてのことでばかりで、最初はとても苦労をしましたが、じかじか、その教育を自分と同じように受けるので、同期と仲良く受けるので、同時に教育

も楽しくなっています。無事、半年間の教育を終え、中隊に配属されました。自衛隊は体力のみを必要とする職業だと思っていました。が、今回、琴海地域事務所を1か月間配置され、広報活動をやらせてもらって、このよくな仕事もあるというのを知り、それと同時に、人とのコミュニケーションや臨機応変に対応することの難しさを学びました。今回の臨時勤務により、より多くの学生が自衛隊に興味を示してくれると嬉しいのです。そして私も部隊に戻って、臨時勤務で学んだことを何か一つでも生かすことができるよう、また、募集に関する知識を普及できるように頑張ります。



雇用企業様の声

公益財団法人

長崎県建設技術研究センター

課長補佐 西川 義和

○企業概要及び事業内容等
公益財団法人長崎県建設技術研究センター(通称NERC(ナーク))は、生活や産業の基盤となる社会資本の品質確保を通じて、県民の福祉の向上に寄与することを目的として設立された長崎県の外郭団体です。工事現場における発注者視点での監督補助や積算の支援、橋や港などの公共施設の維持管理支援、建設技術者を育成するための研修、建設用材料の試験などを行っています。

○退職自衛官を採用するに至った経緯

当センターは、県の土木試験所を発展的に解消して設立され、設立時には材料試験部門にも県職員が多数在籍していました。県のセンターへの関与が縮小され、徐々に県職員が減少していき、減員した職員を補充するにあたり、退職時の年齢が若く体系的にも十分であり、指揮命令系統のしつかりした自衛隊という組織の中で仕事を任せてもらえた退職自衛官の方が適任と考え、採用することとなりました。

○退職自衛官の仕事内容

コンクリートやアスファルト、鉄筋など、建設用材料の品質を調べる材料試験部門で、専門の技術者の指導のもと、試験業務に従事していただいています。



活躍するOB隊員

○退職自衛官の働きぶり

建設用材料の試験は、規格で定められた手順通りに試験を実施しなければなりません。真面目に手際よく試験を行っており、また、試験室内の整理整頓もこまめです。規律の高さに感心しています。

コロナに負けない

就職活動

大村駐屯地での教育には、第16普通科連隊をはじめとする同駐屯地所在部隊の任期制退職予定隊員と援護担当者等20名が参加しました。本年度2回目となる今回の教育は面接に関する基本・注意事項や予備自衛官制度等の教育を実施しました。参加者は新型コロナウイルス感染症に伴う雇用・経済状況の悪化についてよく報道されているため、1回目にも増して真剣に受講していました。

陸士就職補導教育を実施

7月 3日(金) 大村駐屯地
7月 14日(火) 竹松駐屯地

厳しい雇用状況

について教育

竹松駐屯地での教育には、同駐屯地所在部隊の任期制隊員12名と竹松駐屯地司令及び各部隊援護担当者3名が参加しました。雇用・経済状況、履歴書の記入要領、職業適性検査及び予備自衛官等制度について教育しました。参加者は、最近の有効求人倍率が56か月ぶりに1倍を下回るなど新型コロナウイルス感染症に伴う雇用・経済状況の悪化が見込まれることなどについて真剣な表情で受講していました。

長崎地本は、就職予定隊員と再就職協力企業とのかけはしとなり、退職予定隊員が安心して第2の人生をスタートできるように就職の援助を充実させていきます。(大村援護センター)



大村援護センターによる教育 (竹松駐屯地)